

結 果 の 概 要

1 出生数は減少

出生数は77万759人で、前年の81万1622人より4万863人減少し、明治32年の人口動態調査開始以来最少となった。出生率(人口千対)は6.3で前年の6.6より低下し、合計特殊出生率は1.26で前年の1.30より低下し、過去最低となった。(第1表)

母の年齢(5歳階級)別にみると、出生数は45歳以上の各階級では前年より増加したが、その他の階級では減少した。合計特殊出生率の内訳は44歳以下の各階級で前年より低下したが、45～49歳の階級では上昇した。なお、出生数及び合計特殊出生率の内訳ともに、30～34歳の階級が最多・最高となっている。(第4表(1)、第5表(1))

出生順位別にみると、出生数及び合計特殊出生率の内訳ともに、いずれの出生順位についても前年より減少・低下した(第4表(2)、第5表(2))。

母の年齢(5歳階級)別と出生順位別を併せてみると、合計特殊出生率の内訳は20～44歳の各階級ではいずれの出生順位についても前年より低下した(第5表(3))。

2 死亡数は増加

死亡数は156万9050人で、前年の143万9856人より12万9194人増加し、調査開始以来最多となった。死亡率(人口千対)は12.9で前年の11.7より上昇した。(第1表)

死因別にみると、悪性新生物<腫瘍>の死亡数は38万5797人(死亡総数に占める割合は24.6%)、死亡率(人口10万対)は316.1であり、前年と同様死因順位の第1位となった。なお、第2位は心疾患(同14.8%、190.9)、第3位は老衰(同11.4%、147.1)となった。(第6表)

なお、新型コロナウイルス感染症の死亡数は、4万7638人となっている(第6表(参考))。

年齢調整死亡率(人口千対)は男14.4、女7.9で、男女とも前年の男13.6、女7.4より上昇した(第1表)。

3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△79万8291人で、前年の△62万8234人より17万57人減少し、過去最大の減少となった。

また、自然増減率(人口千対)は△6.5で前年の△5.1より低下し、実数・率ともに16年連続で減少・低下した(第1表、第2表-1、第2表-2)。

4 死産数は減少

死産数は1万5179胎で、前年の1万6277胎より1098胎減少し、死産率(出産(出生+死産)千対)は19.3で、前年の19.7より低下した(第1表)。

5 婚姻件数は増加

婚姻件数は50万4930組で、前年の50万1138組より3792組増加し、婚姻率(人口千対)は4.1で前年と同率となった(第1表)。

6 離婚件数は減少

離婚件数は17万9099組で、前年の18万4384組より5285組減少し、離婚率(人口千対)は1.47で前年の1.50より低下した(第1表)。